

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和8年2月24日

事業所名 私の家veranda

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である		○	パーティション等で分離空 間を作る	支援の分離を図りたいケースが重なった場合の分離場所の 確保の検討
	2	職員の配置数は適切である	○		集団療育の際のグループ分 けの工夫	支援時間等の職員配置は基準を満たし濃厚にしている。 支援時の状態、内容によっては短時間でもさらに濃厚にできると支援をさらに 手厚くできると思う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	○		施設内の段差はない	
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル （目標設定と振り返り）に、広く職員が参 画している	○			正規職員間での情報共有は行っているが、パートタイムの職員はパートタイム からの出勤になるため情報共有が密になされていないこともある 議事録等で回覧は行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	○			アンケートのご意見をもとに、改善、傾聴を行うように意識している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	○			ホームページにて記載している。 （職員が周知できていない）
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	○			アドバイスを頂いた部分については、今後気を付ける様意識している
適切 な支 援の 提 供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	○		ヒヤリハットがある際 には、安全管理や必要な支援 の形を再研修を行う	事業所内にて研修は行っている （外部研修は業配置上可能なメンバーで行う）
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護 者のニーズや課題を客観的に分析した上 で、放課後等デイサービス計画を作成して 子どもの適応行動の状況を把握するため	○			モニタリングにて保護者様の御座、普段の様子のお伝えしな から、課題を検討、相談して計画を行っている 相談さんが行ってきた支援会議にて各所での様子を元に計画見直しを行っ ている
	10	に、標準化されたアセスメントツールを使 用している	○		決まったアセスメントツールを 設けている	
	11	活動プログラムの立案をチームで行って いる	○			毎週話し合い、案を出し合っている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫し ている	○			リハビリの先生や英語の先生は指定曜日にて契約しているため、決まったプロ グラムになるが、参加されない方や、職員が行うプログラムは常に違うプロ グラムを行っている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をき め細やかに設定して支援している	○		様々な体験をして頂けるよ うに案を出し合いチャレン ジできるようにしている	課題に合わせたプログラム、個別療育に専従職員の配置を行いついてい けるようにする
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	○			多くて3つのグループに子供の状況に合わせ、活動を行っている 個別・集団を混ぜ活動を行えるようにしている
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担につ いて確認している	○		一日10分でもいいので職 員間で最低限の情報共有は 行うようにする	パートタイマーの職員などへの共有はLINEやメール、書面にての共有になっ てしまう。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行 い、気付いた点等を共有している	○		業務報告にて日々の業務の 振り返りは共有するように している	急ぎ共有が必要な内容の場合は即時通達。 他は翌朝やLINEでの共有 送迎対応、日々のケース記録などに時間を要する
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹 底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録は徹底して日々行っ ている	ケース記録にはあった事を客観的に書くように努めている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デ イサービス計画の見直しの必要性を判断し ている	○		モニタリングを適宜行い、現状 の課題や先を見据えての目標を 計画に反映するようにしてい る。	モニタリングを適宜行い、現状の課題や先を見据えての目標を計画に反映す るようにしている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	○		ガイドラインを職員がすぐ 読めるように設置している	5領域の考え方などの共有を意識し、支援を検討するようにしている	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			現場の職員と責任者、児発奮などが出るように組んでいるが、現場支援が濃厚な時間の会議では現場優先のため、対応しうる職員が参加する
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		担任へお会いした際に話を伺う働きかけはしている。	連絡を意識はしているものの、学校サイドからの報告の遅さは否めない。送迎時に担当の先生が付き添わない児童もおられる。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			医療ケア児の受け入れが現状なし トラブル時に対応検討できるように主治医の確認は行っている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		必要に応じて相談員さんへ連絡を取りながら情報の共有のために対応している	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		卒業後就労へ行かれる児童さんの会議等にも出席している	相談員が移行会議が行われる場合は参加し、情報共有に努めているが、会議を行わない相談員の場合はそれができていない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			連携して行えるものなどは協力をいただいたり、わからないことなどのお尋ねなどは行う。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公共施設利用時に地域の児童さんとの触れ合いはある	外部の子供と接する機会は作っていないが、公園などの出先で障害のない子供と触れ合うことがある
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		—	会議などの情報に気づければ参加はしている 不登校児支援を行っている為、朝からの預かりもあり現場優先になることはある
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時の情報共有は行っている	気になることなどはLINEや電話、送迎時に共有、お尋ねするようにしている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			保護者からの相談には応じ、傾聴、アドバイスの支援は行っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時にお伝えし、質問などがあつた際は都度対応している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		課題や悩み等を聴けたときは、ST・PTの先生へ相談などしながら対応	保護者からの相談には応じ、傾聴、アドバイスの支援は行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		親子参加型のイベントや茶話会を行う	ご参加の難しい方の連携が難しく、検討
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があつた場合に迅速かつ適切に対応している	○		ヒヤリハットの記録 職員間で迅速に共有 送迎時に正職からお伝えを行う	即時調査、検討、対策を行うようにしている
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		Instagram 活動カレンダー裏面にて会報発行	
	35	個人情報に十分注意している	○		媒体事の使用写真の公開の方法を保護者に確認している	細かく確認して、各御家庭へ取り扱いについてお伝え了承を得るようにしている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			計画をしているものの、スタートがまだできていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	マニュアルを書類棚にいつでも目にするように設置	マニュアルの周知が甘い マニュアルの熟読をすすめる
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	予測される災害に対して対策の共有	訓練を適宜行う
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	会議などで虐待研修を行うとともに、セルフチェックを半年に一回は行うようにしている。	虐待の事例研修、ケース会議を行うようにしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して	○	身体拘束についての指針はあり	原則として身体拘束を行わないこと、また現状身体拘束が必要がある児童のご利用がない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者の方へアセスメント、フェイスシートの作成で情報の共有を行っている	アレルギーのある児童の把握、保護者への確認のうえ、アレルギー対応は保護者の要望にそように動いており、医師の指示書までは要していない
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハットは細目にあげるようにする	